



歌舞「会陽甚句」(吉備人)

大晦日～元旦 0時～2時 うどん接待

元旦 0時・10時・14時
2・3日 10時・14時

1月14日 9時～10時30分 おかげりはやし

楽しい会陽行事

19日(土)	会	陽
20日(日)	後	まつり
26日(土)	宝	来
27日(日)	宝来春・稚児行列	
6日(日)	大柴燈護摩	

両まいり

主戰
平井全

主藏 平井全吉

ました。
およそ、機が熟さずして何事も
成就しません。この意味で会陽五
百周年という大きな節目は、（参考）

ご承知の通り、牛玉所殿はご祈禱所として、多くの方々の心の拠り所として欠かせないお堂でした。しかし老朽化が進むにつれ、毎年のように急場しのぎの小さな修理が欠かせませんでした。お恥ずかしい話ですが、この頃は複雑な建造物に困惑し、屋根を覆う楠の大木に嘆いていました。

ところが、古建築研究の権威者、櫻井先生から、「失礼ながら、こんな田舎にどうしてこんな立派な建造物が存在するのか!」¹というお話を聞くに及び、初めて明治を代表する重要な建造物である事を知りました。

建造物の調査に二年。修復事業計画は将来の文化財指定を視野にすすめられ、更に四年余りを要し、やっと落慶法会を迎える事ができ

の周辺も見違えるように整備され、災いの種に思えた楠の大木も、吉井川の舟中で持んだであろう姿今までが浮かんできます。今まででは考えられなかつた事ですが、先生に引率された大勢の生徒さんが、牛玉所殿の真裏にある奥殿で一心に手を合わせ姿を目にするようになりました。

今後は、当山との縁を繋いで頂いた各家ご先祖の菩提を祈り、多くの施主の皆様や参詣者の福、多からんことをお祈り致したいと存じます。

ご承知の通り、日本人は古くから神と仏の両方に祈りをささげてきました。正月はもちろんの事、平生も観音さまと牛玉所さまの両方にお参り頂き、ご一家のご繁栄とご健勝をお祈り下さい。

総決算となる昨年は、実に様々なことがありました。当山が開創されてから初めてとなる会陽灌頂に始まり、牛玉所殿大修復落慶。どの行事を取つてみても、多くの皆様の格別のお力添えの賜物と感謝にたえません。心より厚く御申上上げます。

会陽を守護する牛玉所殿、先人が
残された貴重な文化財を、力を結
集して次の世代に伝えなければな
らないという多くの皆様の切なる
願いが結集し、修復事業が成就し
ました。

凛とした甍や、豪壮優美な牛玉
所殿は、歴然として甦りました。堂

「棒頭」の役目を終えて

「宝木取り」は、会陽（毎年二月の第三土曜日）の日より十七日前に行われるところの裸の男たちが福を求めて奪い合う宝木の原木を受け取りに行なう行事である。

行く行事であります。午前零時に西大寺觀音院を出發し、北西約四kmにある芥子山中腹の廣谷山無量壽院へ片道約四十分かけで歩き、古式にのつとり道中一切無言で往復する。一行は、棒頭・正使・挾箱(はさみばこ)・供六名の總勢九名で、法被(はっぴ)に菅笠(すげかさ)、手甲脚絆(てつこうきやはん)、草鞋(わらじ)履きという古来の出で立ちで、うち正使だけが袴(かみしも)姿であり、提灯の明かりを頼りに道中一切無言で往復する。一行は、挾箱に納められた宝木の原本を見るに又さわることも出来ないため宝木の原本がどんな樹木かはわからないのである。この木・何の木・気になる木であります。



には必ず行くのだと強い信念をもつて毎日を過ごしました。次に、「棒頭」としての過去に問い合わせされた事項とその回答についてを記してみます。

その1・「棒頭」さん、道中一切無言で往復された事は確認しましたが、道中何を考え思つて歩いているのでしょうか。

その2・途中で歩みを止めることは出来ません。何故なら、歩みを止める事は、すなわち、会陽行事を中断する事に繋がると考えるからです。

その3・歴史と伝統のある「宝木取り」に要する往復の時間を大変であると思つたことはなく、むしろ使命感としての誇りをもつて、車で往復することを考えたことは未だかつて一度もありません。

最後に、私は、「棒頭」役を降りましたが、今後とも西大寺観音院の世話役を可能な限り引き続きやらせてもらう所存でありますので、以後よろしくお願い申し上げまして筆を置きます。

編 集 後 記

新年 あけましておめでとうございます。

皆様には、良いお正月を迎えて戴けることを、ありがとうございます。昨年は、夏の異常気象（高温）により、農産物の不作で農家の方は、気持ちのしほむ年でした。今年は『うさぎ年』、言葉伝えによりますと、笑いの多い年だそうです。『笑う門には福きたる』と言います。不況も辛いこと嫌なことも笑い飛ばすではないですか。

皆様の顔に笑いの絶えない一年でありますように、願っています。

観音院においては、会陽守護牛玉所殿が大修復され、気持ち新たに皆様の参拝をお待ちしております。
観音院の初詣に出掛け、笑顔と言う福を授かって下さい。

楽しい奉仕あれこれ

冬 うどん接待
春 楠木落葉かき
夏 灯ろうう作り
塔婆書き(水まつり)
秋 大障子張り etc.

皆様のご協力に感謝

牛玉所殿修復奉賛会会長

保都康太

牛玉所殿は西大寺の街の鎮守

堂であり、会陽の守護神を祀る
お堂でもあります。西大寺会陽
五百周年記念事業の一環として
牛玉所殿大修復を計画、無事完
成し、優美で豪壮な姿が甦ります。
これも偏に地域を越えた多くの
皆様方の、物心両面に亘る格別のお
力添えの賜物と衷心より厚く御礼申
し上げます。



昨年はほかにも会陽の宝木投下時間も二時間早めた会陽を創始した忠阿上人を称える法要と顕彰碑の除幕式が行われるなど新しい西大寺を中心にぎわいの輪が大きく広がりました。どれも地元企業や檀信徒らが協力してやみません。

お天気にめぐまれた十一月三日牛玉所殿の落慶法要にお参りさせて頂いて、本当に幸せでございました。新幹線「のぞみ」に

て朝九時二十九分発新大阪を出発しました。一時過ぎに西大寺さんの方へ着き記念式典に参列いたしました。

牛玉所大権現白玉文殊菩薩像を拝観させて頂き身のひき

大阪のおばちゃん参拝記

茨本市

吉原明子

おめでとうございます。いい

いっぱい受けさせてもらつて幸
せに日々暮らせる事を納得いた
しました。お昼からも広い境内の散策を
させてもらい、おみこしの出発の儀
式も今年の会陽の福男達にお目にか
かりここでも又福を頂き、五百年事
業の壮大さに改めて目をみはる思
がしました。残すところあとカレン
ダーマイ、いい年で締めくくれる
と。帰りの車窓でありがとう!!お
いしかったおにぎり、おうどん、幸、
幸。



に向けた一步が踏み出せたと思
います。どうぞこれからも、信仰心豊
かな、安全で明るい会陽の益々の
発展と、心のよりどころとし

ての観音様、牛玉所様へ更に多く
の信仰を集め、お詣り頂けます。
よう宜敷くお願い申し上げます。

(3) 今年は、記念すべき会陽五百周年、牛玉所殿落慶法会とすべ
らしい行事が続き、当節みなたる会の一員と致しまして御奉仕をはじめ奥様や御寺内の関係者の方々の長い間の準備の御苦労、いかばかりかとお察し申し上げます。又奉賛会の関係の方々のすばらしい団結力と活気溢れる御活動が見事に雲一つ無い青空に映えて花咲きました。夜、落ち着きまして法会の一
日を振り返つて思い出しましたの
に、皆々様の“協力”と言う二
文字の力強さをひしひしと感じました。記念のスナップ写真もアルバ
ムの一页を飾る事が出来、何時迄も老夫婦の話題になりそうです。大晦日のお接待、宝来春のささやかなお手伝いに楽しく

花咲く牛玉所さまに 想いをよせて

みなたる会

国重鬼美子

今年は、記念すべき会陽五百周年、牛玉所殿落慶法会とすべ
らしい行事が続き、当節みなたる会の一員と致しまして御奉仕をはじめ奥様や御寺内の関係者の方々の長い間の準備の御苦労、いかばかりかとお察し申し上げます。又奉賛会の関係の方々のすば
らしい団結力と活気溢れる御活動が見事に雲一つ無い青空に映
えて花咲きました。

夜、落ち着きまして法会の一
日を振り返つて思い出しましたの
に、皆々様の“協力”と言
う二
文字の力強さをひしひしと感じ
ました。

記念のスナップ写真もアルバ
ムの一页を飾る事が出来、何時迄も老夫婦の話題になりそうです。大晦日のお接待、宝来春のささやかなお手伝いに楽しく



合掌

心満たされた 落慶法要

一信者

山見美鈴

さる十一月三日、穏やかな小春日和のもと、牛玉所殿修復落慶入仏開眼法会が莊厳な読経の流れの中、肅々と執り行われました。

多くの方々の知恵と努力の結集で、貴重な牛玉所殿を忠実に再建されたというお話を伺い、立派に



合掌

修復されたお堂の中での法要に参加させて頂いたこと、そして心豊かに静かな時間を過ごさせて頂いたことに感謝いたしております。

今回中国から迎えられた白玉文殊菩薩様の裾にそつと手を触れ、たくさんのお願い事も致しました。また、奉納演奏された久保陽子さんのバイオリンの調べも美しく、法要後に行われたお堂の中でのコンサートでは、その姿がまるで観音様が演奏されていくような雰囲気でした。西大寺山主坪井全広住職様はじめ、今回の法要に携わつてこられたすべての皆様のご尽力に、只々感謝の一日でした。

これからも、西大寺を信仰と信頼、心のよりどころとして、いつも身近に感じじていいと思つております。